<< 最終更新日：2015年2月19日 >>

基本情報

科目分類	専門科目	開講年次	3・4年
時間割コード	J080(副 ：J535)	開講区分	後期
開講科目名	プログラム講義国際宇宙法実践演習(副 ：国際宇宙法実践演習)	曜日・時限	火2
主担当教員	高屋 友里	単位数	2

担当教員一覧

詳細情報

■授業のテーマと到達目標

本演習は、宇宙活動に適用される国際宇宙法の基礎を勉強したうえで、宇宙空間の商業利用と軍事利用から生じる法的課題を分析・検討することを目的とする。

■授業の概要と計画

毎回の授業前半（50分）は基礎講義を行い、後半（40分）は国際宇宙法学会（IISL）のマンフレッド・ラクス宇宙法模擬裁判の問題を扱う。同模擬裁判に出場することを目標に、英語での書面作成およびプレゼンテーション方法も指導する。

【1】国際宇宙法の発展と宇宙活動
【2】宇宙条約の基本原則
【3】宇宙損害責任条約
【4】宇宙物体登録条約と宇宙救助返還協定
【5】月条約
【6】国際宇宙ステーションに関する政府間協定
【7】宇宙の軍事利用（1）衛星破壊（ASAT）実験とミサイル防衛
【8】宇宙の軍事利用（2）大陸間弾道ミサイル（ICBMs）とロケットの不拡散
【9】宇宙の軍事利用（3）宇宙技術に関する輸出管理法
【10】宇宙の軍事利用（4）宇宙活動における透明性・信頼醸成措置
【11】宇宙の商業利用（1）衛星利用と法：リモートセンシング・測位・通信
【12】宇宙の商業利用（2）商業衛星打ち上げ：公海上における空中打上げ事業
【13】宇宙の商業利用（3）宇宙旅行
【14】宇宙の商業利用（4）宇宙デブリ

【15】総括

■成績評価と基準

事前準備をもとにした議論・報告を基礎に評価する。

■履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回配布する英語文献を次回演習までに予習してくることが求められる。

★文科省特別経費「シチュエーショナルトレーニング・プログラム」指定授業です。

■学生へのメッセージ

国際宇宙法は、宇宙空間という特殊な環境での活動に適用される法です。宇宙技術が軍民両用（Dual-Use）のため国家安全保障と関連し、また、将来予測される事態に対して事前の検討が求められる法分野です。宇宙プロジェクトの最新動向を押さえながら、実際に使える知識と応用力をぜひ習得しましょう。

■教科書

国際宇宙法に関連する英語文献が中心となる。毎回授業で配布するが、以下の文献の該当部分を予習することが望ましい。

・Isabella Henrietta Philepina Diederiks-Verschoor, Vladim?r Kopal, An Introduction to Space Law, Kluwer Law International, 2008.

■参考書・参考資料等

■授業における使用言語

日本語と英語

■キーワード

国際宇宙法

■参考URL

担当教員一覧

教員	所属
高屋 友里	法学研究科